



UNCOMFORTABLY FAMILIAR

映画『関心領域』監督

ジョナサン・グレイザー

加害者視点から描くホロコースト

日本でまもなく公開予定の映画『関心領域』。アウシュビッツ収容所のすぐ隣で、収容所の所長とその家族が過ごす穏やかな日常を描いた本作は、アカデミー賞国際長編映画賞や音響賞を受賞するなど、国際的に高く評価されている。監督ジョナサン・グレイザー氏が、同作の制作意図などについて語った。



インタビュー

クリスティアン・アマンプール

イラン人の父と英国人の母を持つ。生まれはロンドンだが、幼少期はテヘランで過ごした。英国でジャーナリズム養成講座を修了。渡米し、ロードアイランド大学でジャーナリズムを専攻し、首席で卒業。1983年、CNNに入局。数々の紛争地帯で現地取材を行い、ジャーナリストとして高い評価を得ている。

ゲスト

ジョナサン・グレイザー

英国の映画監督、脚本家。有名企業のCMや、ジャミロクワイの「ヴァーチャル・インサニティ」など一流アーティストのミュージック・ビデオを手掛ける映像作家としても活躍。ノッティンガム・トレント大学で主に劇場デザインを専攻し、卒業後のファーストキャリアは劇場の演出家。アカデミー賞などのノミネート・受賞歴多数。1965年、ロンドン生まれのユダヤ系英国人。



Listening Quiz

59 加害者に親しみを覚える不快感

Christiane Amanpour It is extraordinary in the way you chose to depict the Holocaust,* essentially, without showing the victims but showing the commandant and his family and showing the comforts that at least the wife and children were used to—and ignored what was happening just over their wall. What were you saying by doing the [scenes] adjacent to the camp?

Jonathan Glazer There've been many films made about the Holocaust, and [in] most of them, we would be with the prisoners, and I thought what was a very interesting starting point and perspective was the point of view of the perpetrator.

And the grotesque, stark situation here is that Rudolf Höss* lived with his family. What you see in the film is really a direct simulation of how they did actually live, where their garden abuts the death camps that he was in charge of. So on one side, you have this cornucopia, and on the other side, you have hell. And that wall, for me, is a, sort of, manifestation of how we compartmentalize the suffering of others in order to protect and preserve our own comfort and security.

As Primo Levi* said, Rudolf Höss wasn't made of different clay from any other member of the bourgeoisie in any other country. There was nothing exceptional or dynamic about them. What we were trying to do with the film was to create a space where the viewer could actually project themselves onto them and see how familiar they are and not have the comfort and benefit of being able to empathize with the victim—rather the discomfort of seeing ourselves in the perpetrators.

- depict:**
～を描く、表現する
- essentially:**
基本的には、実質的に
- commandant:**
司令官、所長
- adjacent to:**
～のすぐ隣で、～に隣接して
- camp:**
(難民・捕虜) 収容所
- perpetrator:**
加害者
- stark:**
厳しい、過酷な
- simulation:**
再現、模造品
- abut:**
～に隣接する
- death camp:**
死の収容所、多くの囚人が殺される強制収容所
- cornucopia:**
豊饒(ほうじょう)の角、有り余るほどの豊かさ
- manifestation:**
現れ
- compartmentalize:**
～を区分けする
- clay:**
《比喩的に》物質、素材
▶神が人間の肉体を clay (粘土) で作ったという聖書の記述による。
- bourgeoisie:**
中産階級
- dynamic:**
活発な、言動が目立つ
- project oneself onto:**
自分を～に投影する、想像で～の立場になってみる
- empathize with:**
～に感情移入する、共感する
- discomfort:**
不快感、ばつもの悪い思い



第96回アカデミー賞®
国際長編映画賞 & 音響賞 2部門受賞!!

『関心領域』(原題: The Zone of Interest)

空は青く、誰もが笑顔で、子供たちの楽しげな声が聴こえてくる。そして、窓から見える壁の向こうでは大きな建物から黒い煙があがっている。時は1945年、アウシュビッツ収容所の所長ルドルフ・ヘス(クリスティアン・フリーデル)とその妻ヘドウィグ(ザンドラ・ヒュラー)ら家族は、収容所の隣で幸せに暮らしていた。スクリーンに映し出されるのは、どこにもある穏やかな日常。しかし、壁ひとつ隔てたアウシュビッツ収容所の存在が、音、建物からあがる煙、家族の交わす何気ない会話や視線、そして気配から着実に伝わってくる。壁を隔てたふたつの世界にどんな違いがあるのか? 平和に暮らす家族と彼らにはどんな違いがあるのか? そして、あなたと彼らとの違いは?

配給: ハピネットファントム・スタジオ

5月24日(金)より新宿ピカデリー、TOHOシネマズ シャンテほか全国公開

映画写真: ©Two Wolves Films Limited, Extreme Emotions BIS Limited, Soft Money LLC and Channel Four Television Corporation 2023. All Rights Reserved.

クリスティアン・アマンプール 一言でいうと、ホロコーストを描くために選んだ手法が秀逸ですね。犠牲者は見せず、収容所長とその家族を見せる、少なくともその妻と子どもたちにとっては当たり前だった快適さを見せる、というのは——そして、塙のすぐ向こう側で起きていることを(直接)描かない手法。強制収容所のすぐ隣での暮らしを描くことで何を言いたかったのですか。

ジョナサン・グレイザー ホロコーストを題材にした映画はたくさんありますが、その大半は被収容者目線のもので。そこで私は考えました、出発点と視点として非常に興味をそそるのは、加害者目線ではないかと。

ここでの実にグロテスクで痛ましい事実は、ルドルフ・ヘス(収容所長)が家族と一緒に暮らしていたことです。この映画で観客が目にするのは、彼らの実際の生活をそっくりそのまま再現したものです。一家の庭は、ヘスが所長を務める死の収容所に隣接していました。つまり一方には有り余るほどの豊かさがあり、もう一方には地獄があるわけです。あの塙は、私にとって、自分たちの快適さと安全を守り維持するために、他者の苦痛を分離するということの象徴ともいえます。

ブリーモ・レーヴィが指摘したように、ルドルフ・ヘスは、どの国のどんな中産階級の者とも全く変わらない人間でした。ヘス一家には特別なところも目立ったところもありませんでした。私たちがこの映画でやろうとしたのは、観客が自分を彼らに投影して、いかに親しみを感じるかを思い知り、犠牲者に感情移入できるという慰めも救いもなしに、むしろ加害者の中に自分自身を見る不快感を覚える、そうした場を作ることでした。



1940年からポーランドのアウシュビッツ強制収容所(上)の所長を務めたルドルフ・ヘス(下)

■ the Holocaust (ホロコースト)

第二次世界大戦中のナチスドイツによるユダヤ人などの迫害および大量虐殺。

■ Rudolf Höss (ルドルフ・ヘス)

ルドルフ・フランツ・フェルディナント・ヘス(Rudolf Franz Ferdinand Höss)。アウシュビッツ強制収容所の所長を務めた。ナチス党副総統のルドルフ・ヘス(Rudolf Walter Richard Hess)とは別人。

■ Primo Levi (ブリーモ・レーヴィ)

イタリアの化学者。アウシュビッツ強制収容所からの生還者として収容所での体験を記述した作家でもあり、ルドルフ・ヘスの自叙伝に序文を寄稿した。